



厚高インフォメーション



131

入学式

四月になり、厚真高校も新年度のスタートを切る時期になりました。三月に卒業生や転出された先生方を見送って、少し寂しくなった学校でしたが、新たな顔ぶれも加わり、いつもの活気が戻ってきました。

今年度の新生は、倍率一・三倍の競争の中から、厚高生となった生徒たちであります。このように、今年度も多くの生徒が入学してきたことはとても嬉しいことです。

四月九日、今年も入学式が挙行され、真新しい制服に身を包んだ新入生たちは、みな緊張した面持ちで式に臨んでいました。

新入生代表の長橋孝倫君（厚南中出身）が宣誓の中で「勉学に励み、部活動で身体を鍛え、生徒会活動で自治の精神を身につける」という決意を述べてくれました。

ここで、町民の皆様にお礼です。今年も六月五日（土）に、生徒会の廃品回収を行います。各自治会や保護者の方々のご協力、例年大きな成果を上げております。「町の学校」厚真高校をより立てていただけますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。



厚真中央小 4年

岩崎 添くん (9)

「点数をつけるなら80点かな？字の太さや払いが難しくかったけど、はねはうまくいったよ！」



厚真中央小 4年

山田 萌絵さん (9)

「最後のはねるところが難しかったです。最初のはいりは、自分でも上手にできたと思います！」

今月の記念日

5月9日は「アイスクリームの日」

1869（明治2）年のこの日、日本で初めてアイスクリームが製造・販売されたのを記念して、社団法人日本アイスクリーム協会が制定しました。

同協会では、イベントの開催などを通じて、アイスクリームのPRに努めています。アイスクリームの歴史は古く、日本の王朝時代には、削り氷にシロップのようなものをかけた氷菓が上流貴族の間で食べられていたようです。当時は、一部の貴族やお金持ちしか食べることのできない貴重品だったのです。

日本人とアイスクリームの初めての出会いは、1860年の幕末。アメリカへの使節団の一人が航海日誌にアイスクリーム（当時の呼び名は「あいすくりん」）のことを「誠に美味なり」と書き残しています。そして69年、勝海舟に私淑し、渡米経験のある町田房蔵が、あいすくりんを製造・販売するお店を横浜に開きました。アイスクリー

文芸あつま ◆短歌◆

春早くピニールハウスを作りある八十路過ぎたる唄を訪へり
山越えか熊出没とわが町の有線放送数日つづく
餌台を覗く小鳥の今朝もゐて古米を握り雪を漕ぎゆく

（本郷 矢部 慧子）
（本町 飛谷 文子）
（新町 金本 年子）

（あつま文芸友の会発行『文芸あつま 第十五号』から抜粋）

ムは文明開化のシンボルとなり、舞踏会や晩餐会のデザートとして欠かせない存在になりました。

大正時代には工業生産がスタートしたこともあり、一般にもアイスクリームは浸透していきました。戦後、アイスクリームの大衆化は進み、「ホームランバー」や『ジャイアントコーン』など、今に残るアイスクリームの名品が続々と売り出されたのです。これら市販のアイスクリーム以外にも、最近では季節の果物や地元名産の食べ物を素材にしたアイスクリームが売られています。

観光シーズンを前に、旅行プランを立てている人も多いでしょう。旅先でご当地ならではのアイスクリームを食べるといっても、旅の一つの楽しみ方ではないでしょうか。甘くて冷たいアイスクリームが、きっと、旅の疲れを癒してくれることでしょう。

ぼくの・わたしの クラスじまん

ともだちっていいな

その102 厚南中学校



紹介してくれたのは…

厚南中学校 1年生のみなさん
（書いてくれたのは） 板橋若奈さん
折坂楓華さん



私たちのクラスには、男子が九人、女子が十二人、合計二十一人の仲間がいます。

入学して、みんなが楽しみにしていたことは、教科ごとに先生が変わったり、英語の学習、部活があること。そして何より新しい友達に出会えることです。そんな私たちの良いところは、みんなが明るく笑顔であいさつや返事ができることです。

このクラスには、計算の速い人やおもしろい人、恋の話が好きの人などいろいろな人がいて、学校生活が毎日楽しいです。

部活は、野球部、バレーボール部、バドミントン部、陸上部があり、クラスの二十一人全員が部活に入部しました。

それぞれが、チームのレギュラーになろうと汗を流して、日ごろの練習を頑張っています。

さらに、私たちは「行事やクラス内での係の仕事」も頑張りたいと思っています。特に学校祭の劇では、しっかり大きな声を出せるようにがんばります。

みんなで決めた学級目標、「Best Friends」みんなが団結し信じあえるクラスにもあるように、クラスみんなが信じあえるクラスにしたいです。